

創作ダンスの指導に関する考察

高橋 美穂子[§]

はじめに

平成24年度に文科省によって中学校のダンス男女共習の必修化が実施され、「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」の3つの中から選択して履修できるようになった。既に中村らによって生徒の関心が高いこと、指導する側にも生徒に踊る楽しさを体験させやすく指導しやすいことから、ダンスの授業ではそれまで創作ダンスが主流であった流れから、現代的なリズムのダンスを実施する教員が増えつつある動向が明らかになっている。¹ 創作ダンス、現代的なリズムのダンスの双方とも「互いの違いやよさを認め合い、自己の責任を果たそうとする」「仲間と交流を深める」という共通した学習のねらいがあるものの、創作ダンスでは仲間と交流をしてイメージをとらえ表現をすること、現代的なリズムのダンスではリズムの特徴をとらえて踊ることがその単元の身につけるべき技能と

[§]群馬大学教育学部

¹「ダンスの学習内容と楽しさの検討」中村恭子・浦井孝夫
順天堂スポーツ健康科学研究 第10号, 65~70

して求められており、それぞれ異なる達成目標を持つ。しかし筆者は、創作ダンスの特性である創造性、独創性を発揮し、自分の思いを表現する体験と、現代的なリズムのダンスの特性の、リズムに乗って楽しく踊り、運動的達成感を得られる体験の両方が、ダンスの不可分な魅力であると考え。この2つを分けて学習体験することで、ダンスの持つ本来の楽しさを知らぬまま、あるいは不完全燃焼の昇華しきれない思いを抱えたままダンスから離れて行くことになりはしないかと危惧するものである。

また創作ダンスの指導は、現代的なリズムのダンスが既成の振付を一斉に教え込むのに対し、生徒の自由な表現を引き出すものであるため、短期間で楽しさを味合う境地に達するところまで導くのは、熟練の指導者でないと難しい。ダンス経験のない指導者が多いこと、また単元の時間が短いこともあり、現状はもっぱら生徒の自主性に任せて自由に創作せよという形の指導になりがちである。そうした創作ダンスの授業を受けている生徒達の声を聞くと「創作ダンスは苦痛」という声が圧倒的に多い。「何をどうしたら良いのか分からない」という声や、中には途方に暮れ、「創作ダンスという言葉聞くのも嫌」という声もある。一方、現代的なリズムのダンスの授業を体験した生徒からは「楽しい」「ダンスが好きになった」との感想が多く聞かれる。こうした好嫌の開きは実に残念なことである。ダンスの学習が必修化され、ダンスを体験する機会が拡大した今こそこの好嫌の開きをそのままにせず、「創作活動」「運動的達成感」の両方の良さを盛り込んだ授業内容、方法を研究し模索することは意義がある。これまで創作ダンスの学習内容、指導法についての研究、現代的なリズムのダンスの学習意欲、好意についての研究は見られるが、両種目の楽しさを構成する要素を分析し、取り入れた指導法の研究は見られない。

そこで本研究は、先行研究から創作ダンス、現代的なリズムのダンスの楽しさを構成する要因とそれぞれの問題点を明らかにする。また学生への意識調査、授業を通じたアンケートから創作ダンスは苦痛、現代的なリズムのダンスは楽しいと思わせている要因をつぶさに探り、その結果を分析、

考察することによって、ダンスの本質的な楽しさを味わえる創作ダンスの指導法を検討することを目的とした。

研究方法

- (1) 先行研究「ダンスの学習内容と楽しさの検討ー創作ダンスと現代的なリズムのダンスの比較ー」 中村恭子・浦井孝夫
- (2) アンケートを実施し創作ダンスと現代的なリズムのダンスに関する学生の意識調査をおこない、その結果を分析、考察し、ダンスの授業における指導法を検証する。
- (3) (1)(2)の結果を踏まえて「楽しさ」を感じられる創作ダンスの授業内容について論じる。
- (4) (3)で論じた内容の授業実施を通し、その後のアンケート調査を分析、検証し、考察する。

(1) 先行研究

中村らは「ダンスの学習内容と楽しさの検討ー創作ダンスと現代的なリズムのダンスの比較ー」において、創作ダンスもしくは現代的なリズムのダンスを実施した高等学校の生徒を対象に、各種目を「楽しい」「楽しくない」およびその理由の自由記述という質問調査を行った。その結果からKJ法を用いて各種目の楽しさ構成要因の分類をおこない、学習内容と楽しさの関係を明らかにしている。それによると楽しさの構成要因は「踊る」「創る」「観る」の3つの場面において運動技術、踊る欲求、創作過程、協力交流、発表鑑賞などの5項目、更にその項目ごとに細目化された要素が抽出されている。創作ダンスはその学習内容のねらいとして重要な「踊る」「創る」「観る（発表する）」の3つの活動を包含した指導がなされており、その結果「創意工夫や主体的活動の楽しさ」「仲間との協力、交流」や、「発表の賞賛、共感、達成感」などの楽しさと喜びをもたらしていること、一

方で現代的なリズムのダンスがもたらす楽しさは、教師の一斉指導による既成の踊り方習得学習によって「リズムに乗って踊る楽しさ」に限定され、「創る」「観る」学習に基づく楽しさや学習成果は得にくいことが明らかになっている。

このことから、現代的なリズムのダンスにおいては「踊る」だけでなく、「創る」「観る」の3つの活動をバランスよく取り入れた学習内容を検討する必要があるとしている。

先行研究においてはそれぞれの種目のダンスにおいて楽しさを構成する要因が明らかになった。また現代的なリズムのダンスの学習内容が「創る」「観る」という要素を盛り込みにくく、「踊る」に限定されているという問題点も指摘されている。

しかし筆者は、この現代的なリズムのダンスの学習内容に「創る」「観る」という要素を取り入れにくく、教師による一斉指導で「踊る」活動のみに限定されていることが、逆に生徒の感じる安定した「楽しさ」の一因となっていると考える。この安定した「楽しさ」をそのままに、更に増幅させるという形で「創る」「観る」という要素を盛り込んだ「創造的」な活動にしていくにはどのような内容で授業を展開させていったら良いか。その方法を模索、検討したい。

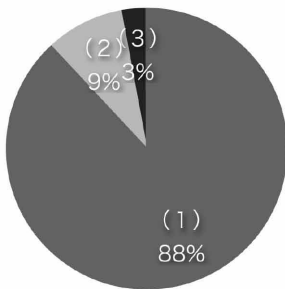
(2) 学生の意識調査より

群馬大学の教育学部で健康科学ダンスを選択した1年生34人と白鷗大学教育学部の保育科3年生104人、合計138人を対象に、創作ダンスおよび現代的なリズムのダンスに関する意識調査を行った。結果はダンスの種目を問わず「ダンスが好き」88%、「ダンスが嫌い」9%、「どちらでもない」3%であった。次に「創作ダンスが好きか、嫌いか」「現代的なリズムのダンスが好きか、嫌いか」と種目を分けて質問調査したところ、創作ダンスが好き21% 嫌い73%、どちらでもない6%、現代的なリズムのダンスが好き79% 嫌い21%であった。これらの項目をそれぞれ創作ダンスが嫌い

で現代的なリズムのダンスが好き（パターンA）、創作ダンスが好きで現代的なリズムのダンスが嫌い（パターンB）、創作ダンスも現代的なリズムのダンスも好き（パターンC）、創作ダンスも現代的なリズムのダンスも嫌い（パターンD）の4つに分けてその割合をみるとパターンA58%、パターンB2%、パターンC27%、パターンD13%で、Aの占める割合が58%ともっとも高いことがわかった。創作ダンスが好きで現代的なリズムのダンスが嫌いのは2%で、大きな捉え方でのダンスについては好感情を持っているものの、その「好き」の殆どは「現代的なリズムのダンス」をさしており、創作ダンスよりも高評価を得ていることが分かる。

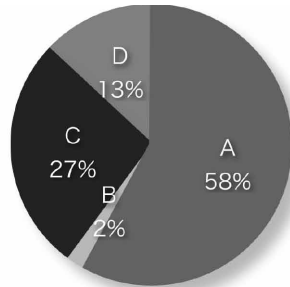
【結果1】

ダンスが好きか嫌いか



- (1)好き
- (2)嫌い
- (3)どちらでもない

ダンスの種目による好嫌



- A 創作ダンスが嫌いでリズムダンスが好き
- B 創作ダンスが好きでリズムダンスが嫌い
- C 創作ダンスもリズムダンスも好き
- D 創作ダンスもリズムダンスも嫌い

(2)ー1 パターンA

学生に一番割合の多かったパターンAについて、自由記述で「現代的なリズムのダンスが好きで創作ダンスが嫌いな理由」を調査したところ、「創作ダンスはどう動けば良いのかわからず経験の有無がはっきりしてしまうが、既成の振りを練習すればよいリズムダンスは達成感が得られる」「動きのレパートリーがないため創作ダンスは困るが、振りを教われるリズムダンスは楽しい」「創作ダンスはグループ内の人間関係が大きく活動に影響す

るが、リズムダンスは個々で習得すれば良いので楽」などの理由が多くあった。「経験の有無がはっきりしてしまう」という記述は創作ダンスを嫌う理由、現代的なリズムのダンスを嫌う理由の双方に見られたが、創作ダンスについていえば、ダンスの初心者にとって身体言語の語彙が少ないことに加え、自由過ぎてどのように踊ればいいのかという具体的な指標がなく、辛いと感じることが「経験の有無がはっきりする」という記述につながっていると思われる。それに対して現代的なリズムのダンスでの「経験の有無がはっきりする」とは、一つずつの技能についての達成度をさすものである。こちらには指導者の振付という習得目標、踊り方という具体的な指標があり、どのように踊ればいいのかという目的の明確化がなされている。これが生徒の学習意欲に大きく影響していると思われる。また、創作ダンスの活動過程においてはグループごとに作品創作に取り組むため、グループ内で意見を出し合い、テーマを掘り下げ、振りを吟味して創り上げて行くというコミュニケーションが必須となり「友人と意見が合わない大変」「グループにやる気のない人がいると進まない」「話し合いが面倒くさい」など仲間との協力交流、人間関係の葛藤が創作ダンスを嫌う一因ともなっている。現代的なリズムのダンスは指導者対生徒の一方向の流れで活動が進められるため、仲間との交流や一体感などは体験されにくい。生身の人間関係が希薄な現代の若者が求める「楽しさ」とは、衝突や軋轢がなく、一方通行の流れで既成作品を習得し、発表し、手軽に達成感を得られる学習内容にあると言える。

(2)ー2 パターンB

創作ダンスは好き、現代的なリズムのダンスは嫌いとした人は全体の2%であり、もっとも少なかった。理由としてあげられているのは「かっこよく踊れない」「身体が追いついて行けない」というもので、メディアを通して日常的に目にするダンスの振りから、現代的なリズムのダンスは速いテンポでかっこよく踊るものという先入観があり、ダンス初心者には

ハードルが高いものとして映っているようである。その点創作ダンスは自分のスキルに合わせて無理のないテンポの作品を創り、踊ることが可能なため、抵抗がなく取り組みやすいという意見がみられたが、全体として少数であった。

(2)ー3 パターンC

創作ダンスも現代的なリズムのダンスも好きと回答したのは44%でパターンAに次いで多かった。これを選んだ人は創作ダンスのいいところ、現代的なリズムのダンスのいいところの両方を好きな理由としてあげており、創作ダンスについては「自分で考えるのが楽しい」「仲間と一緒に創る過程が楽しい」「自由で面白い」「感情を込められる」「一から創るため大きな達成感を得られる」「普段とは違った自分になれる」とし、現代的なリズムのダンスについては「ノリが良くて楽しい」「知っている曲だと気分が上がる」「かっこよさがある」「激しく踊れて楽しい」などがあつた。「創る」「なりきる」「仲間と交流する」「自分を表現する」などの創作ダンスの特性も、「リズムをとらえて踊る」「ステップを組み合わせて踊る」などの現代的なリズムのダンスの特性も存分に楽しんでいることが伺える。ただこのパターンCの回答者は、初心者ではなくダンス経験者が殆どで、一定の経験と既に習得した技能が次の段階への意欲につながっていると思われ、授業で初めてダンスに触れる大多数の生徒と同じに考えることはできないと思われる。

(2)ー4 パターンD

創作ダンスも現代的なリズムのダンスも嫌いという回答は13%であった。この回答者はダンスそのものに関心がなく「面倒くさい」「踊りが好きではない」など、種目を問わず好感情を持ってないことがうかがえる。どのクラスにもこうした関心のない生徒は少なからずいるはずで、ダンスが必修化された今、生徒の関心を引き出し、ダンスの楽しさを体験する授業内

容を検討することは喫緊の課題と言える。

(3) 創作ダンスの授業の可能性

先行研究、学生への意識調査により、ダンス初心者の学生の多くが「現代的なリズムのダンス」を楽しいと感じ、「創作ダンス」は難しいものと感じていることが分かった。

このことを考えるに、まず第一に創作ダンスと現代的なリズムのダンスというものをどのように認識し、活動に臨んでいるかというところに問題があると思われる。創作ダンスは表現したいことを掘り下げ、テーマを掲げ、それを表すための動きと展開を模索するもので、本来はその方法に制約がなくあらゆる意味で自由なものである。しかし学生の記述の中には「創作ダンスはゆったりとした音楽、テンポが遅い音楽で動くイメージがある」というものがいくつもあり、「ゆっくり動く初心者粗が見えやすく、速いテンポに乗って踊った方が格好が付きやすい」ということを理由に敬遠する意見もあった。また現場で指導する指導者も、ダンス経験のない人ほど「創作ダンスはゆったりとしたテンポの音楽で踊るもの」と認識しているようである。自由であるはずの創作ダンスについて、生徒の側にも指導する側にも固定観念、先入観があるように思われる。リズムに乗って速いテンポで踊る創作ダンス作品があってもよく、そのことを体験的に知れば創作ダンスへのイメージも変わるのではないか。現代的なリズムのダンスの特性であるとされ、生徒が楽しさを感じやすい「リズムを捉えて全身で踊る」「立てノリでリズムを刻む」という要素を創作ダンスの「創る」「表現する」という活動に表現手法の一つとしてとり入れるのはどうか。それにより表現の幅が広がり楽しさを感じやすくなるとすれば、現代的なリズムのダンスは楽しく、創作ダンスは楽しくないとい先入観を払拭するのではないか。

第二に、アンケートの結果より、創作ダンスを嫌う大きな要因となっている「ゼロから創ること」の困難さが、短い単元の時間内では大きな割り

合いを占めてしまい、「創り、表現して楽しむ」「鑑賞し合って楽しむ」という体験にまで至らず、辛さだけが残ってしまうことが見てとれる。この点を改善するのに、前半は既成の振りを課題として与えるのはどうか。活動の時間そのものが短いため、ゼロからのスタートではなく指導者が振りを一部課題として振付けるのである。ダンス初心者にはまず「創る」ための一歩を踏み出すことが困難であり、テーマを掘り下げながら活動の行く手が見えないところで停滞してしまいがちである。一定の既成の振りを課題として与え、そこに繋がる形で後半を創作するという導き方は、初心者にとっては大きなヒントになると思われる。また、前半部分の振りにできるだけ多様なものを盛り込むことで練習課題ができ、身体を動かしながらその先を考えることができる。これはウォーミングアップとしても大変効率が良い。身体を動かしながら作品にあった動きを模索することは、何もせずに立ち尽くして意見交換するよりもずっとアイディアが出やすく、活発な議論ができる。前半部分を踊り、身体を温めると、身体感覚を通してテーマにあった動きを模索し、思考を巡らせることができる。そしてまた既成の振りの部分、曲が与えられることで、作品テーマを決める際の意見交換のきっかけとしても有用であり、更にそこからイメージを膨らませるなど自分たちの創りたい作品が姿を表しやすいのではないかと。

このようにして課題で与えられた振りを練習することにより、ダンス技能の習得、様々な動きの可能性を知り、身体言語の語彙を広げるなどの学習効果も見込まれる。既成の振りの部分からそれに繋げる形で「創る」活動への展開も期待できる。更にはグループによって同じ課題をもとに広がるイメージの違いを楽しむ「観る」楽しさも味わえると考えられる。

以上のことから、筆者は前半部分の振りをあらかじめ課題として与え、その振りから連想するテーマをグループで話しあい、それに繋がる形で後半を創り、発表、鑑賞し合って違いを楽しむという創作ダンスの活動内容を提案する。その上で生徒の感じる創作ダンスの「楽しさ」に変化があるかどうかを調査し、その結果を分析、検討して授業内容の更なる充実をみ

たい。

(4) 考察

(4)ー1 「現代的なリズムのダンスの特性を生かした創作ダンス」 の授業実践指導記録

○講座「スポーツ健康科学 ダンス」「身体表現2」(必修)

- 内容 1. テンポの速い音楽のリズムを捉え、振付を覚えて練習する
2. 与えられた既成の振りの部分からイメージを膨らませテーマを
考えて続きを創作する。
3. グループごとにタイトルを発表し作品を披露して鑑賞し合う

対象 群馬大学教育学部1年生34名 白鷗大学教育学部3年生104名
計138名

手順 振付開始日 2012.9.28 10.1

期間 この日から週に1回3ヶ月間

課題 指導者の振付ける振り2分間を覚える

覚えたその振りからイメージを膨らませ、テーマ、タイトルを考
えて後半1分を創る。創った後半に合わせて前半の踊り方も工夫
する

人数構成 8人までの小グループ

作品時間 既成の振付部分2分 自分たちの創作部分1分

音楽 「ke\$ha」の「Blah Blah Blah」

ダンス発表日 2013.1.21, 2.1

発表後アンケート調査実施

創作、発表の様子を観察し、分析、考察する。

発表後のアンケート調査を分析し、授業のあり方について考察する。

【授業の流れ】※全課程終了後にアンケートを実施

過程	活動内容	指導の留意点
活動1 「課題の振りを覚えて技術を習得する」 群馬大学 (10/1. 8.15. 22. 29.) 白鷗大学 (9/28. 10/5.12. 19. 26.)	ke\$haの「Blah Blah Blah」を最初から2分間、指導者の振付を覚える。 その際にダウン、アップの基礎、ロック、グレイプバイン、ボックスステップ、ランニングマンなどのステップを練習課題として盛り込む。	前半の振りにはできるだけ全身運動になるようなものを多く取り入れ、踊っただけで身体が温まるようにする。速すぎないリズムでノリのよい音楽を選び、簡単な基礎ステップを丁寧に教え、できたときに達成感を得られるものにする。
活動2 「課題から連想してテーマを考え、それに続く振りを創作する」 群馬大学 (11/5.19.26. 12/3.10.17.1/7.) 白鷗大学 (11/2. 9.16. 30.)	少人数のグループを作り、課題の振りからイメージを膨らませ、各グループで話し合っってテーマを決める。 決めたテーマにのっって続きの振りを1分創作し、前半の踊り方も工夫する。	隊形の変化や、課題の振りのアレンジなど、具体的にヒントを出しながら巡回し、課題にとらわれ過ぎず自由にアイデアが広がって行くように声をかけ、導く。
活動3 「お互いに発表、鑑賞し合っって違いを楽しむ」 群馬大学 (1/21) 白鷗大学 (2/1)	グループごとにテーマを発表して踊り、同じ曲、振付でどのように違いが出たかを鑑賞しあっって楽しむ。	他のグループにはない自分たちらしさを存分に発揮するよう声をかけ、またそれぞれの違いをあげて表現の可能性について考えさせさせる。

(4)ー2 活動の様子から

群馬大学教育学部1クラス、白鷗大学教育学部2クラスの計3クラスで3ヶ月にわたって授業を実施した。クラスによっての差異はなく、どのクラスも活動に取り組む様子には同じような傾向がみとれた。活動は「課題の振りを覚えて技術を習得する」「課題から連想してテーマを考え、それに続く振りを創作する」「お互いに発表、鑑賞し合っって違いを楽しむ」と、その内容と進度により大きく3つに区分されるので、その一つずつについて観察し結果を考察する。

【活動1】「課題の振りを覚えて技術を習得する」

一番初めの授業では、ダンスの経験のある生徒は楽しみに授業に臨んで

おり、経験のない生徒は列の後方や端に隠れるように並び、消極的な様子であった。「できないかもしれない」という不安や「恥をかきたくない」という気持ちが強く働き、「できないよ」「やったことないし」など活動を敬遠するような言葉も聞かれた。

音楽は速すぎずにリズムのとりやすいもの、ノリの良い音楽を選択した。振りには右に移動したら必ず左にも移動するというように、対になって覚えやすい展開を工夫し、その中にはロックやランニングマンなど「現代的なリズムのダンス」であるヒップホップダンスの技法を取り入れた。日常的にメディアなどで目にし、生徒が「かっこいい」「やってみたい」と関心を持つダンスの振りを実際に取り入れることで、「覚えたい」「できるようになりたい」という学習意欲を喚起することができる。初回の授業で消極的な様子であった生徒達も、ステップを練習し、できるようになるにつれ「練習すればできる」という実感を得て、「次の振りは？」と積極的に質問するなど活動に意欲を見せるようになった。

音楽のリズムに合わせて振りができるようになると、それまで後方で隠れるように踊っていた初心者の生徒もだんだん前に出てくるようになり、「もう1回曲をかけてください」と、繰り返して音楽をかけて踊っては「できた！」などと達成感を味わっているようであった。「覚えると楽しい」「できた！嬉しい！」などの声もあちこちから聞こえるようになった。生徒達が振付を覚えてしまっただけからは、歩幅を大きくする、膝の曲げ伸ばしははっきりする、メリハリをつけて踊る、などの踊り方についても助言した。助言の通りに動けたときには、生徒の向上心に繋がるよう「大きく手が伸びていいね」「歩幅が広くてかっこいいよ」などと具体的に褒める言葉をかけた。1から創る場合は立ち止まって話し合うことからスタートするが、既成の振りを練習することから始める場合は、時間内の達成目標が明確であり、立ち止まらずに済む。課題の振りをできるように練習し身体が温まってほぐれると、気分も上がって活動が更に活発になるという好ましい展開が見られた。

【活動2】「課題から連想してテーマを考えそれに続く振りを創作する」

前半2分の課題の振りを覚えて踊れるようにした後、グループごとにそこまでの振りの流れから連想してオリジナルのテーマを考えてもらった。意見を出し合いながら創る過程は床に座って話し合うことが多く、ともすると停滞したものになりがちだが、既成の振りがあるためそれを踊りながら続きを考える、半分ずつ前半を踊って鑑賞し合いながら連想を深めるなど、絶えず踊りながら作業が進められていた。これは短い時間の中で効率よく作業を進めるのに非常に有効だと思われる。踊りながら考えることで身体が温まり、心もほぐれてアイデアが活発に出ていたようであり、前半部分に課題の振りがあるということが、創作活動にも好影響を与えていたと思われる。あるグループでは前半を踊ってみて「狩りっぽい感じがする。狩りをテーマにしよう。」という意見が出たり、また別のグループでは前半の部分の振りをさして「ここの動きは水面を滑っているみたいだからスケートはどうか」という意見が出たりしていた。ダンス経験がなく、当初は消極的であった生徒も積極的に意見を出し、アイデアが枯渇して行き詰まると課題の振りを練習して気分転換を図るなど、立ち止まる人がなく、クラス全体の誰もが踊っているという好ましい光景が見られた。

活動も後半になり、1分間の創作部分を創り終えたグループからは「始まり方を変えてもいいか」「途中で大きな技を入れたいので、前半部分をアレンジしてもいいか」などの声があがり、課題の振付部分についての工夫にも挑戦し始めるところが見られた。それ以外のグループも「各グループならではの良さを存分に出す」という目標達成のため、たとえばテーマが「女豹」なら「狙いをつけるように歩き、俊敏に跳ぶ」などと踊り方をテーマに沿うよう工夫して表現しようと努力していた。

【活動3】「お互いに発表、鑑賞しあって違いを楽しむ」

活動の締めくくりとして、最後の授業ではグループごとに発表し、鑑賞しあって感想をまとめた。同じ曲を使っても「女豹」「逃走中」「ボスの時計のゆくえ」などそれぞれイメージしたものの違いが明らかになり、その

違いに驚き、楽しむ様子が見られた。

(4)ー3 アンケートの結果および考察

授業実践の後でおこなったアンケート調査を分析し、現代的なリズムのダンスの振付を取り入れた創作ダンスの授業がどのように生徒に受け止められたかを考察した。その結果、【1】同じ曲を使用し課題の振りがあるにも関わらず、各グループごとに創意工夫がなされ、作品の多様性が見られたこと、【2】与えられた振りがある方が創りやすいと感じた人が86%を占めていたこと、経験者はゼロから創った方が楽しく感じ、初心者は振りがある方がいいと感じやすいということが伺えた。【3】発表し、鑑賞しあった感想としては、「緊張した」「練習通り発表できるか不安だった」という声はあったものの、授業を受けた生徒138人全員が「楽しかった」と記述しており、自分たち以外のグループが連想した内容の多様性に驚く記述が多く見られた。

【結果1】では使用曲が決まっているということと、3分の作品のうち前半2分に指導者が振付けて残り1分を創作するという縛りがあるため、前半部分に影響されて各グループが創作するものに偏向傾向があるのではと危惧していたが、杞憂であった。「前半の部分をどう感じ、どう捉えて作品のテーマを決めたか」という質問に対し「セクシーな動きがあって縄をまわしているような動きもあったので、狩りを連想し、意中の男性を振り向かせようと頑張る女性の様子を表現しようと思いつき、それを女豹にたとえた」というものもあれば「力強さや胸の鼓動を感じ、新しい1年を邁進していこうという思いから2013というタイトルにした」というものもあった。また「とてもかっこいい印象を受けたので、その続きは自分たちらしく、かっこよさとのギャップを出したいと思って振りを創った」と前半部分で感じたイメージとは真逆の方向で後半を創り、作品全体の面白さを練ったものもあった。

【結果2】では「課題の前半部分の振りが与えられ、そこから連想して創

る場合と、ゼロ（音楽も振りもタイトルも）から創作する場合とどちらがやりやすいか」という質問に対し、与えられた振りがある方が創りやすいとの回答が全体の86%を占めた。音楽も振りもタイトルもゼロのところから創り上げて行くには時間を必要とする。その場合コミュニケーションの活発にとれるグループとそうでないグループとでは進度に差が出てしまうが、課題を与えられていることがグループ内の議論のきっかけとなり、話し合いでも意見を出しやすかったという記述が多く見られた。また「話し合いが早く進むのでその分振りや構成などの工夫に時間をかけることができた」という記述もあった。これらの記述は初心者によるものであり、課題をヒントにしてその先を進めるというやり方は、初心者にも経験者にもそれほど進度の差をつけずに授業を展開できることが分かった。

一方でゼロから創った方が創りやすいといった意見も少数ながらあった。その理由としては「タイトルも音楽も自分たちに合ったものを探した方が愛着がわく」「前半の部分のイメージと後半が違ってしまわないようにと考えると難しかった」などである。しかしこれらの記述はダンス部員などの経験者によるもので、ダンスの楽しさを既に知っており、更なる創作意欲を見せたものであると思われる。

【結果3】 発表した感想として多く見られた記述は「緊張した」と「楽しかった」である。特に「楽しかった」という記述は調査の対象となった学生全員が記述していた。授業実践前のアンケート調査では友人同士の葛藤を心配する声も見られたが、実践後の記述では、既成の振りがあることから議論のきっかけを得て話し合いが円滑に進んだとあった。また、創作した部分も既成の振付も発表できて達成感が得られたとの記述が多かった。

他のグループの作品を鑑賞した感想は「同じ音楽でもこんなに違うとは驚いた」「主題によってまったく異なる作品に見えて面白い」「創作した部分が前半と繋がって、前半もそれぞれ異なって見えた」など、全員が既成の振付を課題として習得することからスタートした作品が、後半にそれぞれオリジナルの展開を見せたこと、その感じ方や主題の広がり、表現の可

能性を楽しんだことが伺える。

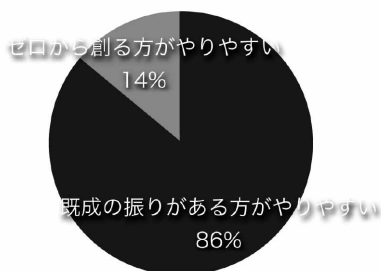
【結果1】作品の多様性

作品タイトル	表現したい内容
「不良転校生の襲来」	喧嘩がテーマ・力を合わせて闘う
「2013」	新年になってテンションが上がる
「逃走中」	生活の苦しさから逃走する毎日
「ハンターハンター」	次々と男を落として行く女
「ジャングル」	野性的で木々をかき分ける感じ
「ダンス始めました」	初心者がダンスを楽しむ様子
「園田の愛を受け止めて」	園田さんの愛が溢れる感じ
「ボスの時計の行方」	ヤンキーのような荒っぽい感じ
「30minutes dance」	かっこいい感じ
「ジョジョの奇妙な踊り」	ジョジョ立ちの奇妙な感じ
「フライングゲット」	仲間で踊るという楽しい感じ
「なんちゃってダンス」	ちょいかっこいい感じ
「strong girls」	強くてかっこいい女の子
「HAPPY」	元気で可愛く楽しい感じ
「みんなのことは私が守るたるレンジャー」	たるレンジャーが悪い敵を倒していくというイメージ
「COOL★」	かっこよく俊敏なイメージ
「ばみゅ・ばみゅ・ばみゅ」	ばみゅばみゅのように表情豊かに
「Honey Boo Boo」	自分が一番！という感じ
「アクティブ！！」	自分たちの元気溼刺なところ
「ひと夏のG」	ゴキブリが最後に殺される様子
「セクシー白雪姫と6人の愉快的仲間たち」	セクシーさと明るさを出したい
「パワーパワフルガールズ」	元気で明るくパワフルな感じ

【結果2】ゼロから創るのと既成の振りがあるのとどちらが創りやすいか

- 既成の振りがある方がやりやすい
- ゼロから創る方がやりやすい

創作の方法



ゼロから創る方がいい理由	既成の振りがある方がいい理由
<ul style="list-style-type: none"> • レベルを自分に合わせることができ る • 1 から創りたい • 最初から創った方が愛着がわく • たくさん創りたい • イメージを出し合って振りを考えら れる • 前半があらかじめあるとイメージを 壊してしまうから全部創りたい • 好きな曲を選びたい 	<ul style="list-style-type: none"> • 次のイメージが明確にできる • 時短になってその後半に工夫がで きる • 同じ振りから連想すると感じ方やイ メージが異なると他の人を知れる • ダンス経験者がいないと創作は難し い • 既成の振りがあるとそれをもとに イメージがわく • 課題があるとグループ内の議論が活 発になる • ダンス経験のないものにとっては創 作と言われてもまったく見当がつか ないので振りがある方がいい • ダンスの知識が増える

まとめ

今回おこなった学生のアンケートの自由記述の結果によれば、これまでのゼロから創る形式の創作ダンスの授業では、学生の多くはダンス経験のなさからくる不安や恥ずかしさから、自由に表現するどころかどのように動いたら良いかと途方に暮れ、運動的にも物足りなく精神的にも不満が残るということが分かった。一方現代的なリズムのダンスには魅力を感じ、実践後にはダンスを一層好きになったという経験を持つものが多かった。またこの傾向は初心者に顕著に見られるものであり、ダンス経験者は必ずしもこの限りではなく創作ダンスの「創る」「踊る」「観る」という要素を楽しんでいることも分かった。

そこで筆者は、初心者の創作ダンスは難しく、楽しくないものという意識を変え、現代的なリズムのダンスに感じるような運動的な楽しさを味わいつつ、創作の楽しさをも体験できるような授業として前半は現代的なリズムのダンス、後半はそれに続く形で創作をするという活動を提案し、3ヶ月にわたり実践してきた。授業の前後におこなったアンケートによる意識調査や、発表にいたるまでの活動の様子などから、ダンスの初心者にとっ

ては音楽の選択や振付などすべてを任せゼロから創る活動よりも、一定の振付を習得すべき課題として与え、そこからイメージを膨らませて創作する活動の方が楽しさを感じやすいということが明らかになった。筆者はダンスの楽しさは音楽に合わせ、リズムに乗って踊ること、自分を表現することの両方の要素が必須であると考え。ダンスの男女共習必修化が施行された今「現代的なリズムのダンス」「創作ダンス」のどちらを選択してもその両方が味わえる授業の内容を模索することは意義のあることであり、今回実践した創作ダンスの授業に学生の多くが楽しさを感じられたということは、これをもとに更なる授業の可能性、内容の充実をはかる第一歩となったと言える。

今後の課題

今回は短い履修期間、単元の時間内に、ダンス初心者が創作ダンスの「楽しさ」を味わうための活動内容を検討したが、この課程を経て次の段階ではゼロから創り上げる、産みの苦しみを伴う「楽しさ」を体験させたい。

今後の課題として、これに繋がる創作ダンスの指導、導きについて更なる活動内容の充実をはかり、研究を進めていきたい。

引用文献・参考文献

- (1) 中村恭子・浦井孝夫 (2006) ダンスの学習内容と楽しさの検討ー創作ダンスと現代的なリズムのダンスの比較ー 順天堂大学スポーツ健康科学研究 第10号, p.65~70
- (2) 中村恭子 (2009) 中学校ダンスの男女必修化の課題ー中学校教員を対象とした調査にもとづいてー 順天堂大学スポーツ健康科学研究 第1巻第1号, p.27~39
- (3) 中村恭子 (2010) 中学校体育全領域必修化に伴うダンス授業の変容と展望ー東京都立中学校を対象とした調査からー 順天堂大学スポーツ健康科学研究 第1巻第4号, p.472~485
- (4) 内山須美子 (2012) 「現代的なリズムのダンス」の学習意欲・好意・有能感に関する研究 白鷗大学教育学部論集 6(1), p.67~90

- (5) 若松美恵子（1981） 保育者養成としての身体による自由表現の指導法研究—その基本的考えと問題提起— 白梅学園短期大学紀要第17号, p.51～62
- (6) 白井麻子（2009） 身体表現の指導に関する考察—カードを利用した表現遊びの事例より— 白鷗大学教育学部論集 3 (1), p173～186
- (7) 松本富子・仁井田千寿・金子直子（1999） ダンス領域における実践的授業スタイルの導入と成果—感想文の分析から— 群馬大学教育学部実践研究(6), p.155～174
- (8) 高野牧子（1994） VTRによる創作ダンス自己評価の教育的効果 東京体育学研究1994年度報告
- (9) 内山須美子・小倉翔平・根岸義克（2011） 「現代的なリズムのダンス」の学習意欲に関する研究—学習成果と学習動機および学習ストレスとの相関— 白鷗大学教育学部論集 5 (2), p331～360